軍の命下の報を注進するにつけ保盛
の使(牌)而まして古疎〳〵日よし沙汰許あり
なる松と云人いふ事〳〵可言をなるをといへ
共是は世よ世なりきて記を而〳〵梅太平記を見
るに阿保秋山よ對しての詞よ見ハ軍の
法因て阿保肥前ある忠臣と申者よ此幼稚
の昔より東國よ居住して明義ハ山陽の
歌を追(じい)江河の難を渡て業とせし宮張良
て名をふふ世さされた変化世よ意して歌
一余り一巻の書も是氏孫氏り伝へし而をも皆

の為よ死を発する而ハ勇士の已と心よ沿
乃なれを元弘建武以後三度の合戦
よ此方を助強を破り賊を降参を殺を去
らをと云く太平記評判三十二之巻了曰
阿部(保)萩野大将武義(ヨシ)將堅よ猛を切を宮
よ北延て命を助りしハ古代未世の恥よ
あらをや元弟後自害してを助りしと
いふ事てあるなれ弟後として大将よ自
害ををて已り命下を助りる事武の上ハ戯(キ)
事ゆ指をさして禁をへを事そりし阿